月刊やまなご

2016.8.15 発行 No. 225

8 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター (あるこっと) だより









湿原散歩

今年の夏は天候不順で6月から7月にかけ曇りや雨の日を含め、30日もあった。今月になり湿度も高く蒸し暑い日が続いた影響か、アブや蚊が多く、観光客を悩ませているが、それでも道外の観光客から「涼しい」といった感想をいただいた。地元の新聞には、早くもストーブの広告が載るころとなった。

コッタロ川と湿原のほとりから

194 8月のコッタロ湿原便り

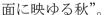
コッタロ在住. 中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

お盆を待たずして秋風の吹くコッタロは、早々と黄葉したクルミ、白樺の落葉が始まっており、凉 風にくすぐられる様に揺れる道端の釣鐘ニンジン(うす紫色)やクサレ玉(黄色い小花)が彩りを放 っております。"針桐の一葉落ちたる夕べ哉"。春先に針桐の若い芽を天プラにして食した記憶がよみ がえりました。

さて、7月の長雨続きで、"晴天は7日限りに夏は行く"。かと思いきや、8月に入り、一瞬ではあ りますが4,5,6,の三日間+30℃を記録して驚かされたではありませんか。畑作物が地熱を得て 一気によみがえったのは云う間でもありません。このように激しい変動を繰り返す気象を予測するの は至難のわざでしょうが、今後はもうコッタロに猛暑は望めないでしょう。一方で、この大雨を喜ん でいる生きもの達がいて,中でも珍客の「ゆるキャラ」が現れましたのでパチリ!これ迄のと異なり, 太っちょの雨蛙で、"保護色の草に化けたる蛙哉"に思わずニンマリ。

特筆すべきは丹頂等に起きた異変で、昨年♂が入替わった第1コツ&タロの今度は♀が、抱卵した まま姿を消してしまったのです。7月中旬頃から♂のみで庭をうろついていると、別の若い♀が、必 ず山側から侵入してくると即、 みが猛ダッシュして追い払っていたところ、 8月2日からは、 『鳴き 合い』を始めたのと、行動を共にしていて、離れず、どうやら番を形成したのではないでしょうか? "丹頂の世代交替見る葉月"。それにしても、ここでかれこれ 30 年余りの間 25 羽のヒナを巣立たせ たあの旧♀は一体いづこへ???・・・・。熾烈を極めたナワバリ争いで4度やり直した営巣全て失 敗したのも初めて。このエリアに暮らす4番にもヒナは育っておらず、成鳥ばかり8羽が連日争奪戦 に明け暮れております。

ところで、我家の庭をすみかとして三年目のエゾシマリスに2匹の子リスが誕生し、7月30日に 巣穴から出て参りました。クルミの木の下で元気に遊んでいると、"シマリスのやかたに落つる木ノ 実哉"。又、ノビタキ街道に面した我家の枯木に止まって羽づくろいをしている珍しいポーズに思わ ずパチリ!小首をかしげたノビタキのおやじさんのゆとりに万才!!一方、庭池では、沈み行く太陽 が水面に映えて、波紋を広げる丹頂とのコンビネーションに酔いしれてみて下さい。"丹頂の狐影水









山に囲まれた国道 391 号線沿いの電線にアオバトがいました。 頭部と胸の黄色が目立ち、肩に雄の特徴の赤紫色の斑紋がありま した。雌は赤紫色の部分がなく、雄に比べて全体的に淡い色合い です。釧路湿原には夏鳥として飛来し、あるこっと周辺では 6 月 頃から、どこか物悲しげな鳴き声が時々聞こえますが、見る機会 は滅多にありません。アイヌ語では鳴き声から wawow (ワうおウ) とか wao (ワお) と呼ばれます。森林性の鳥で、木の実を採食しま すが、海水や温泉の湯水を飲む習性があることも知られています。



名は体を表す!?

今年もスイレンの仲間のヒツジグサが塘路湖の水面に彩りをそえています。塘路湖岸から双眼鏡や望遠鏡で湖面に浮かぶ花が見られます。カヌーを利用すれば、花の中心部分が観察できます。7月中旬から9月上旬に見られるので機会を作ってぜひごらんください。



清楚な白い花にぴったり!? 属名 Nymphaea (ニンファエア) は、ギリシア語で「水の精」 の意。

塘路湖のヒツジグサは、中心部分が紅紫色になるエゾベニヒツジグサです。



つぼっちの郷土館周辺うろうろ日記 Vol.91「焔の季節」

郷土館は7月下旬から8月中旬まで土器野焼きの時期となっています。町内小中学校の縄文土器作り体験を行うのが6月頃、そして塘路湖エコミュージアムセンターと標茶町郷土館との共催で実施し

ている土器作り体験は、毎年7月中旬頃に実施しており、十分に乾燥した土器から土器焼きを数回に分けて行います。

土器は屋外で焚き火を起こして焼きます。最初は焚き火の周りに土器を置き、少しずつ土器をあぶっていき、最後に焚き火の中に直接土器を投入。そして土器が焼きあがるのですが、約5時間かかります。夏の日差しの下で焚き火の作業はつらい作業ですが、土器が焼け上がるときにのみ見ることができる「土器が美しい橙色に染まり、半透明のようになる状態」を見ることができるのは、野焼きに立ち会った人だけの特権です。

私にとって土器焼きが多いこの季節は、まさに "焔の季節"なのですが、体調を整えて今年も楽 しく取り組んでいます。

坪岡 始(標茶町郷土館学芸員)

8がつしにちばしょ郷土館の横

焼き上がった土器を、取り出すと、急速に 色が変化はす。これも又、面白い現象です。



8・9月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

鳥の刺繍ワッペンを作ろう

「日時」 8/27 (土) 10:00~15:00

「定員・参加料] 10名・500円

「持ち物〕昼食

[集合場所] 塘路湖エコミュージアムセンターレクチャールーム



←見木

*湿原周辺で暮らす野鳥の図案を布に刺しゅうして約5cm×5cmのワッペンを作ります。

バードカービング初心者講座1回目

[日時] 9/4 (十) 10:00~15:00

「定員・参加料] 10名・5,500円

[持ち物] 昼食、エプロン、30 cm定規、筆記具

「集合場所〕塘路湖エコミュージアムセンターレクチャールーム

*今年度はウグイスを全5回の講座を通して作ります。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪申し込み問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで To 015-487-3003

秋の湿原花ハイク [日時] 9/11(日) 10:00~12:00

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪申し込み問い合わせは 温根内ビジターセンターまで To 0154-65-2323

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【 植物 】(7/16) オオウバユリ. ヒルガオ. シベリアシオガマ. ナガボノシロワレモコウ (7/17) ヤナギラン(7/22) エゾベニヒツジグサ (7/25) イケマ. ヨブスマソウ. ジンヨウイチヤクソウ. クルマユリ. ウツボグサ. オオバボダイジュの実 (7/28) エゾノキツネアザミ (7/30) ツリガネニンジン (7/31) サワギキョウ. イヌエンジュ. クサレダマ (8/2) ヤブジラミ. キンミズヒキ. トモエソウ. ヒシ. エゾヤマハギ. オニグルミとヤマブドウの実 (8/9) オニユリ. ハンゴンソウ (8/12) ヒヨドリバナ. エゾトリカブト

【鳥】(7/23)キジバト.ベニマシコ (7/25)アカエリカイツブリの親子.マガモ (7/27)カルガモの親子 (8/2)ウグイス (8/12)アオジ (8/13)タンチョウの親子 (8/14)アカゲラ.センダイムシクイ.ビンズイ.コサメビタキ 【その他】(7/25)コエゾゼミの声.クロイトトンボ.シオカラトンボ (8/2)ジャノメチョウ (8/14)コオニヤンマ.マユタテアカネ

- ■8月17日(水)は<mark>夏期臨時開館最終日です。当日は環境省のアクティブレンジャーとパークボランティアが対応し、希望者には館内と塘路湖畔歩道のガイドも行います。</mark>
- ◆日出・日入時間 8/15(4:28, 18:25). 8/31(4:46, 17:59). 9/14(5:01, 17:34)



コオニヤンマ (塘路湖岸)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

●088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00~17:00 (11月~3月は16:00まで) 休館日:毎週水曜日 12月29日~1月3日 入館無料